

# 第11章 人づくり・環境学習等

## 第1節 人づくりの推進

### 1 ESD ユネスコ世界会議の成果の継承【環境政策課、環境活動推進課、生涯学習課】

県は、2014年11月に開催された「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議」を通じて、環境面における「人づくり」を多様な主体と連携・協働して地域全体で取り組んでいくことが重要であることを改めて認識し、「人づくり」の推進に向けて取り組んでいます。

特に、ESD ユネスコ世界会議の「あいち・なごや宣言」では、①ユースをキーとなるステークホルダーに巻き込み尊重すること、②ユースの課題解決能力等の能力育成を強化することが重要とされたことから、県では、2015年度以降、次世代の地域の担い手となる大学生や高校生を対象にした「人づくり」プログラムを順次展開し、ESD ユネスコ世界会議の成果を踏まえた取組を推進しています。

なお、学校現場でのESDの推進拠点として位置付けられている「ユネスコスクール」に、本県では166校（2020年3月時点）が加盟・申請しています。

### 2 持続可能な未来のあいちの担い手育成【環境政策課】

#### （1）かがやけ☆あいちサスティナ研究所

県は、近い将来、地域の担い手となる大学生が、グローバルな視点を持って、継続的に環境

配慮行動を実施していくプログラムとして「かがやけ☆あいちサスティナ研究所」を2015年8月に立ち上げました。本研究所は、大村知事を所長とし、パートナー企業から提示された環境面での取組に関する課題に対し、研究員である大学生が現場での調査や企業担当者とのディスカッションを通して、解決策を企業側に提案し、その成果を広くPRしていくものです。

#### （2）2019年度の研究所プログラム

2019年度は多くの応募者の中から選考された40名の大学生を研究員として採用しました。また、パートナー企業10社から研究員へ与えられた研究課題は、各企業が直面している環境に関する問題などであり、研究課題として魅力的な内容でした（表11-1-1）。

#### （3）研究員の活動

研究員は6月30日の開所式を皮切りに、チームごとに活動をスタートし、基礎講座（2日）、企業環境活動研究（4日）、成果発表準備（2日）、研究成果発表会（1日）、出張成果発表会（2日）、地域環境活動の実践（1日）などの活動を実施しました。特に企業環境活動研究では、研究員は自主研究してきた内容と実際の現場との比較や、企業の担当者から生の声を直接聞くなど、非常に貴重な経験を得ていました。

表 11-1-1 2019年度パートナー企業からの研究課題

パートナー企業	研究課題	パートナー企業	研究課題
(株)伊藤園	「お茶で愛知を美しく。」環境活動を広げる方策を検討	花王(株)	花王商品を通じて、生活者の環境意識を高める啓発方法を検討
積水ハウス(株)	人生100年時代を見据えた幸せな「わが家☆わが街」を検討	東京海上日動火災保険(株)	「地球の未来にかける保険・サービス」を検討
東レ(株)	東レのSDGs取組を子どもたちに楽しく伝える授業を検討	凸版印刷(株)	SDGs達成に向けた未来の「環境配慮型パッケージ」を検討
トヨタ車体(株)	事業者による多様な主体と連携協働した環境学習等の普及策を検討	中日本高速道路(株)	2030年における高速道路の環境に配慮した取組を検討
三井不動産商業マネジメント(株) ららぽーと名古屋みなとアクルス	ららぽーとを拠点としたお客様参加型の環境イベントを検討	(株)メニコン	「人にも動物にも環境にも優しい」メニコンの施策を検討

#### (4) 研究成果発表

研究員が開所式以来、約半年間をかけて、まとめた研究成果を発表する「かがやけ☆あいちサスティナ研究所 成果発表会 2019」を12月15日に開催しました。

研究員は、約300名の来場者の前で、チームごとに研究成果を8分間で発表しました。どのチームの提案も、大学生ならではのアイデアあふれるものであり、パートナー企業から「実現に向けて検討していきたい」などの評価をいただきました。

発表後には、修了式を実施しました。研究員代表者としてチーム・ららぽーとさなだりょうたろうの真田凌太郎さんが大村知事から修了証を受け取り、今後の



修了証授与の様子

環境リーダーとして活躍する意気込みを述べました。大村知事からは、「研究活動で大いに議論したこの経験を今後の環境活動で生かし、持続可能な未来のあいちの担い手として活躍してほしい」とのコメントがありました。

また当日は、4名の審査委員による審査で最優秀賞及びかがやき賞、来場者投票でオーディエンス賞を選定しました。



受賞チームの皆さん

栄えある最優秀賞には、プラスチック削減とジェンダーフリーを両立した生理用ナプキンパッケージを提案したチーム・TOPPANが、かがやき賞にはチーム・積水ハウスが、オーディエンス賞にはチーム・tokiomarineが選ばれ、表彰を受けました。

### 3 中高年・シニア環境学習推進【環境活動推進課】

県では、2018年度に養成した中高年・シニア世代の環境学習講師「あいちecoティーチャー」を小学校や環境学習施設等に派遣し、ごみや水に関する環境学習講座を実施しています（表11-1-2）。2019年度は講座を19回実施し、受講後には、小学校等から給食の食べ残しが減った、水を出しっぱなしにしないよう子ども同士で声掛けをするようになった等、子どもの行動に変化が見られたとの声を多くいただきました。



講座の様子

表 11-1-2 環境学習講座

テーマ	講座名
ごみ	どこへいく？ プラスチックごみの真実！
	食べ物とごみのさかい目はどこ？ ～ごみをなくそう大作戦！～
水	地球上の少ない水でキミは何する？
	節水大作戦～ムダな水を探そう～
	水の惑星地球を救え！ ぐるぐるトルネード実験

#### 4 高校生の環境学習推進【環境活動推進課】

##### (1) あいちの未来クリエイト部

2017年度から開始した「あいちの未来クリエイト部」は、県内の高校生のグループが専門家等の支援を受けながら、地域の環境に関する調査・研究を行い、その成果を基に環境学習教材を作成し、地域住民をはじめ広く県民に発信する活動です。

2019年度は、愛知教育大学附属高等学校自然科学部、愛知県立阿久比高等学校理科部、名古屋市立工芸高等学校防災チームの3グループが参加しました(表 11-1-3)。

##### (2) 調査・研究活動

参加グループがそれぞれテーマを設定し、専門家から基礎講座や調査の方法の指導を受けながら、調査を実施しました。また、



11月23日に開催された県主催の環境イベント「Let's エコアクション in AICHI」に

おいて、調査・研究の成果発表を行いました。



ホタル養殖場の見学(県立阿久比高校)

##### (3) 環境学習教材の作成・活用

調査・研究の成果を基にボードゲームやパズルといった教材を作成し、地元の小学生等に体験してもらいました。



小学校での教材の活用(愛知教育大学附属高校)

表 11-1-3 2019年度あいちの未来クリエイト部参加グループの調査・研究内容及び作成した教材

参加グループ名	調査・研究内容	作成した教材
愛知教育大学附属高等学校自然科学部	カキツバタに関するアンケート調査および現地の生き物等の観察	・カキツバタの花をつくってみよう(工作) ・カキツバタクエスト(ボードゲーム)
愛知県立阿久比高等学校理科部	ホタルの生態や生息環境、地域の取組等についての調査	・ホタル人生ゲーム(ボードゲーム)
名古屋市立工芸高等学校防災チーム	環境と防災との関連の調査、防災対策現場の見学	・環境くずれ〜(バランスゲーム) ・防災くみたて〜(パズル)

#### 5 未就学児を対象とした自然体感プログラムの推進【環境活動推進課】

県では、「もりの<sup>まなびや</sup>学舎」において、人と自然をつなぐ役割を果たす森の案内人「インタープリター」により、幼いうちから自然に触れ、学び、気付きを得る機会を提供する事業を実施しています。

##### (1) もりの学舎ようちえん

未就学児とその保護者を対象に、もりの学舎やその周辺で、四季を通して自然体感プログラムを実施しています。

2019年度は30組の親子が全6回のプログラムに参加し、インタープリターとともに森の探検や、

森の木を使ったスプーン作りなどを行い、楽しみながら自然とふれあいました。参加した保護者からは「虫とりをしたり、どんぐりやくりをひろったり、季節を多く感じることができた」との声をいただきました。回を重ねるごとに、子どもたちが五感を使って自然を楽しめるようになり、自然に対する感性が育まれている様子が伺えました。



虫を観察する様子

### (2) 一日もりの学舎ようちえん

県内の幼稚園・保育園等を対象に、もりの学舎やその周辺で1日(又は半日)で行う自然体感プログラムを実施しています。

2019年度は9園が参加し、参加した園からは「自然物を取り入れて遊ぶ姿がみられるようになった」との声をいただきました。

自然体感プログラム  
「森のおべんとうづくり」

### (3) 森の伝道師派遣

インタープリターを県内の幼稚園・保育園等に派遣し、園庭等の身近な環境を使った自然体感プログラムを実施しています。

2019年度は15園で実施し、参加した園からは「五感で感じる自然体験ができた」「身近な園庭にある自然を活かす遊び方を知ることができた」という声をいただきました。

自然体感プログラム  
「葉っぱでお絵かきしよう」

### (4) 子ども自然体感活動指導者養成研修

幼稚園教諭、保育士やその職を志す学生等を対象に、園児に自然体感プログラムを実施するノウハウを身に付ける研修を実施しています。

2019年度は尾張地区と三河地区で研修を実施し、尾張地区32人、三河地区24人が参加しました。

参加者は自然体感プログラムを体験することで感性を広げるとともに、未就学児に対してプログラムを実施するスキルを学びました。参加者か

らは「今回、研修に参加して、身近な自然でこんなにも遊びの幅が広がるのかと感動した」「園ですぐに実践できそうな遊びが多く参考になった」などの声をいただきました。



プログラムの体験

## 6 エコアクションの推進

(1) あいちエコアクションの推進【環境活動推進課】

県では、県民の環境に対する意識を地域全体の行動へと広げていくため、地球にやさしい身近な環境配慮行動を実践へとつなげる「あいちエコアクション」を推進しています。

この「あいちエコアクション」の輪を大きく広げていくために、県民参加型の啓発イベントを開催するとともに、県内の環境学習施設との連携やWebサイト「エコリンクあいち」の活用に取り組んでいます。

### ア 啓発イベントの開催

エコアクションを楽しみながら学ぶことができる県民参加型の啓発イベントとして、2014年度から「Let's エコアクション in AICHI」を開催しています。2019年度は、刈谷市との共催により11月23日(土・祝)、24日(日)の2日間、刈谷市のみなくる広場、刈谷市総合文化センターアイリス、夢と学びの科学体験館及びトヨタ車体(株)刈谷ふれ愛パークで開催し、約9千5百人の方が来場されました。エコ実験パフォーマーのらんま先生によるサイエンスショーやあいちエコアクション広報部のOS☆Uによるエコアクションクイズ、My エコアクション宣言、環境を題材としたワークショップなどにより、子どもから大人までの幅広い層にエコアクションへの理解を深めていただきました。



エコアクションクイズ



ワークショップ

## イ <sup>あえる</sup> AEL ネット環境学習スタンプラリーの実施

県内の環境学習施設や市町村などのネットワークである愛知県環境学習施設等連絡協議会（AEL ネット）を活用して、県民の皆様に気軽に楽しく「エコアクション」へと踏み出す機会を県内各地で提供しています。

AEL ネットは「Aichi Environmental Learning Network」の頭文字をとったもので、2020年9月末現在で184施設等38市町が加盟しており、これらの施設等では、環境全般、エネルギー、自然、ごみを減らす3R、水環境などについて学習することができます。

2019年度はAEL ネット加盟施設のうち178施設等が連携して環境学習スタンプラリーを実施し、67,853人が参加しました。

## ウ 「エコリンクあいち」の活用

様々な環境活動情報やイベント情報の発信、情報交換により活動団体の交流の輪を広げることが目的に、Web サイト「エコリンクあいち」（<http://aichi-eco.com>）を運営しています。

### （2）自発的な環境配慮活動の促進

#### ア 食を通じた環境配慮活動の促進【食育消費流通課】

県は、「あいち食育いきいきプラン2020」（第3次愛知県食育推進計画（2016年3月作成））において、「食を通じて環境に優しい暮らしを築くこと」を食育推進の柱の一つとして設定しています。この中で、「食べ物を残さず食べるようにするなど、学んだ知識をもとに自ら行動する」、「食べ残しや食品の廃棄を減らす」などの県民の主体的な取組を促すとともに、実践促進に向けた県や関係団体等による10の取組項目を掲げています。

これまでに、県、関係団体、市町村等が様々な取組を実施していますが、「むだや廃棄の少ない食事づくりを積極的に行っている」県民の割合は、2019年度では45.3%で、2015年度（41.8%）から改善しました（目標は2020年度50%以上）。

2019年度の主な食育の取組について「あいち食育いきいきレポート2020」を県が作成し、広

く関係者に紹介しています。このうち環境配慮活動に関しては以下の7事例がありました。

#### 【環境配慮活動の具体的取組】

##### ○食生活における環境への配慮の徹底

親子エコクッキング教室、食品ロス削減環境学習プログラムの作成など

##### ○農林水産業への理解と地産地消の一層の推進

農業教育用資料の作成・配布、農林高校の活動を通じた地産地消の啓発

##### ○農林水産業や食品産業における環境への配慮の徹底

団体の連携によるフードバンクへの支援

#### イ グリーン購入の促進【環境活動推進課】

グリーン購入とは、製品やサービスを購入する際に、必要性をよく考え、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入することです。

グリーン購入は、消費生活など購入者自身の活動を環境にやさしいものにするだけでなく、供給側の企業に環境負荷の少ない製品の開発を促すことで、経済活動全体を変えていく可能性を持っています。

県は、岐阜県、三重県、名古屋市、環境ラベルの管理運営団体、グリーン購入の普及推進団体、スーパーマーケットやドラッグストアなどの販売店、メーカーなどと協働して、2002年度から毎年度「東海三県一市グリーン購入キャンペーン」を実施し、グリーン購入の普及に努めています。

2019年度は、2020年1月10日から2月9日までの1か月間をキャンペーン期間として、東海三県内等の4,609店舗とともに、以下の取組を実施しました。

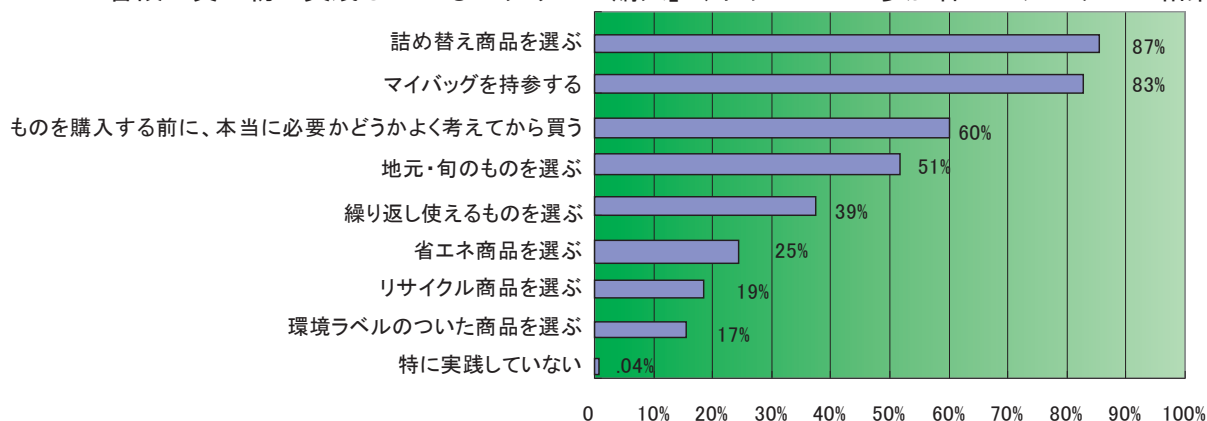
- ① 店舗内でのポスター、POP等の掲示や、詰替商品、環境ラベル商品、旬のもの・地のもの等のグリーン購入対象商品を集めたコーナーの設置
- ② グリーン購入対象商品の購入者を対象に、環境に配慮した商品のセット等が当たる懸賞応募を実施

③ 環境対応商品の紹介など、協力店舗による独自企画を実施

④ 店舗・メーカー・環境ラベル団体との協働で、グリーン購入に関する展示、クイズ等のイベントを実施（愛知県は一宮市のテラスウォーク一宮で実施）

⑤ キャンペーン前に店舗やメーカーの担当者を対象に、当年度実施する取組の内容について意見を聴取し、キャンペーン終了後に店舗・メーカー・環境ラベル団体の担当者を対象にキャンペーンの実施報告及び次年度以降の効果的な実施等に関する意見交換会を開催

図 11-1-1 普段の買い物で実践している「グリーン購入」（キャンペーン参加者へのアンケート結果）



（注）2020年1月10日～2月9日実施 （資料）東海三県一市グリーン購入キャンペーン実行委員会調べ

## ウ 地域環境保全委員の設置【環境活動推進課】

県は、地域における環境の状況を把握し、その保全に関する活動を推進するため、**愛知県環境基本条例**第19条の規定に基づき、地域環境保全委員会を設置しています。

委員は、地域における環境保全に関心及び知識を有し、かつ、環境保全に関する活動に熱意を有する人の中から、市町村長の推薦を受けて知事が委嘱しており（定員200人、2020年4月

1日現在）、それぞれが担当市町村において以下のような活動を行いました。

- 地域の環境の状況調査・報告
- 県が行う環境保全施策への協力・環境保全に関する啓発、指導等
- 地域における環境保全のための自主的な活動への参画、指導等
- 県が主催する地域環境保全連絡会議等への出席

## 第2節 環境学習等の推進

### 1 環境学習の推進【環境活動推進課】

環境問題は、私たちの暮らしや経済・社会と密接に関わっており、環境問題を解決するためには、問題の本質や取組の方法を自ら考え、解決する能力を身に付け、何よりも行動に結びつけていく環境学習が不可欠です。

このため、県は、2005年1月に「**愛知県環境学習基本方針**」を策定し、「**あいち環境学習プラザ**」及び「**もりの<sup>まなびや</sup>学舎**」を拠点にして、環境学習講座などを実施してきました。

2012年10月に**環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律**が施行されたことに伴い、県では2013年2月に「**愛知県環境学習等行動計画**」を策定しました。その後、2018年3月にこれを見直し、持続可能な社会を支える「行動する人づくり」を目的とした「**愛知県環境学習等行動計画2030**」（以下本節において「**行動計画2030**」という。）を策定し、環境学習の一層の推進に取り組んでいます。

(1) 愛知県環境教育等推進協議会の開催

県では行動計画 2030 の推進のため、学校教育及び社会教育の関係者、県民、事業者、NPO、学識経験者、行政等で構成する愛知県環境教育等推進協議会を設置しています。

2019 年度は協議会を 1 回開催し、行動計画 2030 の推進に関する意見交換等を行いました。

(2) 環境学習の拠点施設での取組

ア あいち環境学習プラザ

2020 年 4 月に環境調査センター 1 階に移転した「あいち環境学習プラザ」では、体験型学習や実際の環境分析現場の見学等、施設の特徴を生かして楽しく環境について学ぶことができます。また、小学校の授業としても活用できる環境学習講座や、夏休み等の親子向け環境学習講座を実施しています。



あいち環境学習プラザ

イ もりの学舎

自然体験型の環境学習施設「もりの学舎」では、愛知万博で実施されたプログラムを継承・発展し、土・日・祝日等を中心に様々な環境学習プログラムを実施しています。

また、2011 年度からは企業等と連携・協働した学習プログラムも実施しており、開館（2007 年 3 月）以来の入館者数は 606,741 人、プログラム参加者数は 250,168 人（2020 年 4 月末時点）となっています。

- もりの学舎連携企業等一覧  
(2019 年度、五十音順)
- (一社) 愛知県環境測定分析協会
  - (一社) 愛知県産業廃棄物協会
  - (公財) 愛知臨海環境整備センター
  - (株) 環境科学研究所
  - 積水ハウス(株)
  - 積水ハウスマッチングプログラム
  - (一財) 東海技術センター
  - 東京海上日動火災保険(株)
  - 東邦ガス(株)
  - 名古屋キワニスクラブ
  - (株) みらいアセット

【2019 年度「もりの学舎」事業実施状況】

○プログラム参加者数： 19,887 人

内 容	参加者数
インタープリターとあるく森のツアー(毎週土・日・祝日) インタープリターともり遊びにいこう(毎週土・日・祝日) など	6,076 人
あそび工房 インタープリターによる自然素材やリサイクル素材などを使った工作教室 (GWや夏休みなどの特定日、1日2回又は3回)	3,923 人
その他の事業 もりの学舎キッズクラブ、おさんぽ de いきものみつけ、夏・冬おやこクラブなど(随時開催)	9,888 人

○来館者数： 34,253 人



あそび工房



おさんぽ de いきものみつけ

新型コロナウイルス感染拡大を受けて自宅待機を余儀なくされた児童などに向けて、県の環境学習施設「あいち環境学習プラザ」では、2020年4月に家庭で楽しく学べる環境学習Webページ「あいち環境学習プラザ 自宅講座～家庭でやってみよう～」(https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyo-c/jitakukoza.html)を作成しました。

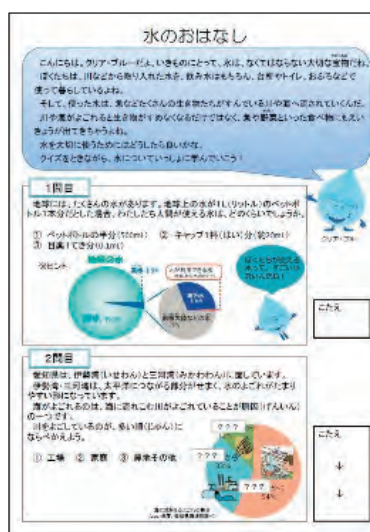
このWebページでは、クイズやゲーム形式の学習シートを使って、自然や水などの身近な環境やSDGsについて、家族で楽しく学べる講座を掲載しています。

このうち「SDGs クロスワードパズル」は、2030年までの世界の共通目標であるSDGsに沿った17の設問があり、SDGsについて楽しく学ぶことができます。

家族で楽しく環境を学ぶツールとして、是非ご活用ください。

講座一覧

講座タイトル	内容	推奨学年
これは何かな? 【自然】	植物や動物の一部分を拡大した写真やイラストを見て、それが何かを当てながら、生態について学ぶことができます。 また、自分で問題を作ることができるワークシートもありますので、家族みんなで楽しむことができます。	小学 1年生～
水のおはなし 【水】	普段何気なく使っている水について、クイズを解きながら、水が汚れる原因や水をきれいにする方法など、水の大切さについて学ぶことができます。	小学 3年生～
SDGs クロスワードパズル	クロスワードパズルを解きながら、SDGsについて学ぶことができます。	小学 4年生～



学習シート (イメージ)



愛・地球博記念公園内の環境学習施設「もりの学舎」（2007年3月25日開館）では、環境に関する様々な展示を行っているほか、土・日・祝日を中心に、「インタープリターと歩くもりのツアー」や各種工作教室などの環境学習プログラムを実施しています。

2019年11月23日（土）にはもりの学舎への来館者数が60万人に達しましたので、12月14日（土）に記念イベントを実施しました。

記念イベントでは、小学生以下の方に「昆虫おりがみ」をプレゼントするとともに、インタープリター（森の案内人）用ベストを着た記念撮影会「きみもインタープリターになろう！」や木の枝を使ったサンタクロースの工作プログラムを行いました。

もりの学舎では、これからも皆さんが笑顔で自然に親しんでいただけるように、様々な活動を実施していきます。



記念撮影の様子



木の枝を使ってサンタづくりをしている様子

### （3）環境学習コーディネーターの活用

環境学習は、具体的な行動に結びつけていくことが重要であり、そのためには、地域を教材とした自然体験や社会体験などを通して実感を持って学ぶことが非常に有効です。またこのような体験型の環境学習を地域や学校等で推進するためには、地域、学校、NPO、事業者、行政等が連携・協働し、各主体のノウハウを生かしあうことが

重要です。

このため、県では2013年度から「環境学習コーディネーター」をあいち環境学習プラザに配置し、講師・活動場所の紹介といった相談業務や、講師と相談者との講義の日程や学習内容の調整などを行うコーディネート業務を実施しています。

2019年度の依頼件数は、相談業務が17件、コーディネート業務が10件でした。

表 11-2-1 2019 年度環境学習コーディネーターの活用事例

依頼者	豊橋市立南稜中学校
依頼内容	3年生に梅田川の水質や干潟に関連した話のできる講師を紹介してほしい。
講師	株式会社日水コン 清水康生氏
講座内容/時間	梅田川の歴史と流域の特性ほか/50分
講座受講後の生徒の変化	身近な梅田川に関心をもち、そこに暮らす生物やゴミ問題を追究していく姿が見られた。
講座の感想	専門家による講演ということで、生徒は一生懸命メモをとりながら話を聞くことができた。 具体的な資料（グラフや写真など）が提示されることで、梅田川の歴史、水質環境などについて生徒に視覚的に訴えることができた。また、生徒は河川によるゴミの量の違いを知り、梅田川のゴミの多さを実感することができた。
コーディネート制度を利用した感想	要望に沿った講師の選定、事前協議等がスピーディーに行われた。 また、外部の人材を活用する際のノウハウやコツを知ることができた。

#### （４）愛知県環境学習施設等連絡協議会の運営

県は、愛知県環境学習施設等連絡協議会（AELネットワーク）を設置し、県内の環境学習施設や市町村等が保有する環境学習プログラムや指導のノウハウ等の情報を共有し、各施設間のネットワークづくりを進めています。

2019年度は、協議会を2回開催し、各施設等が抱える課題や連携した取組に関する意見交換等を行いました。

#### （５）こどもエコクラブ活動への支援

環境省の呼びかけにより始まった「こどもエコクラブ」は、子どもたちが地域の中で楽しみながら自主的に環境活動・学習を行うクラブで、県内では、2019年度末で62クラブ3,926人がリサイ

クル・美化活動・自然観察会などの活動を行っています。

県は、地方事務局としてこどもエコクラブの活動を支援しました。

#### 2 学校における環境教育の推進【環境活動推進課、義務教育課、高等学校教育課】

学校教育における環境教育は、社会科（高等学校においては、地理歴史科及び公民科）、理科、生活科、家庭科（中学校においては技術・家庭科）、保健体育科等の関係教科、道徳科及び総合的な学習（探求）の時間、特別活動等、それぞれの目的に即して取り上げられています。

2019年度は、学校における環境教育の推進を図るため、次の事業等を実施しました（表 11-2-2）。

表 11-2-2 学校における環境教育推進事業例（2019年度）

事業	内容
環境学習副読本の作成・配付	県内の小学校の4年生に対し、環境学習副読本「わたしたちと環境」を作成・配付（名古屋市立は各校1冊配付）
心の教育推進活動の実施	県内の小・中学校において、家庭・地域との連携を基盤に、環境保護、自然との触れ合い、奉仕、福祉等の体験を重視した教育活動を実施

（資料）環境局・教育委員会調べ



2019年度版環境学習副読本

### 3 環境月間行事の実施【環境活動推進課】

1972年6月5日から2週間、スウェーデンのストックホルムで国連人間環境会議が開催されたことから、国連は6月5日を「世界環境デー」と定め、日本でも環境基本法により「環境の日」と定めています。

また、環境省の主唱により、1991年度から、毎年6月の1か月間を「環境月間」（1973年度から1990年度までは6月5日を初日とする週間を「環境週間」としていました。）とし、環境問題の重要性を認識するとともに将来に向かってよりよい環境を創出するための努力と決意を新たにす機会として、各種の記念行事を実施しています。

## 第3節 SDGs達成に向けた「人づくり」の推進

### 1 SDGs達成に向けた「人づくり」の取組等【環境政策課、企画課】

持続可能な開発目標（SDGs）は、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2030年までの国際目標で、17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。

県は、2019年7月に内閣府から持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域として「SDGs未来都市」に選定され、知事を本部長とした「愛知県SDGs推進本部」を設置するとともに、SDGsの達成期限である2030年の愛知県のあるべき姿や、SDGsの達成に向けて今後3年間に先導的に進める取組を記載した「愛知県SDGs未来都市計画」（計画期間：2019～2021年度）を策定し、

県では、2019年6月7日に県本庁舎正庁で「環境保全関係功労者表彰式」を開催しました。表彰式では、県内の環境保全に関し顕著な功績があった3団体と23名の受賞者が、知事から愛知県産の間伐材を使った表彰状等を受け取りました。



令和元年度環境保全関係功労者表彰式

全庁を挙げて取組を推進しています。

SDGsの実現に向けては、企業・大学・NPOなど多様なステークホルダーが、環境、社会、経済分野の様々な問題を統合的に解決できる人材「SDGsの担い手」となり、主体的に行動していくことが必要であるため、県は、「SDGsの担い手」を育成する取組を推進しています。

2019年度は、SDGsの17のゴールを身近なキーワードを用いて分かりやすく解説するとともに、県内の取組事例等を紹介した「愛知県SDGsガイドブック」を作成し、県民に広く配布しました。また、SDGsの内容や具体的な活動を知ることができるセミナーや、SDGsの意義・必要性をカードゲーム形式で楽しく学べる参加体験型のワークショップを開催し、合計231名の方に御参加いただきました。

#### 【「愛知県SDGs未来都市計画」における2030年の愛知県のあるべき姿】

「世界をリードする日本一の産業の革新・創造拠点」（経済面）、「人が輝き、女性や高齢者、障害のある人など、全ての人が活躍する愛知」（社会面）、「県民みんなで未来へつなぐ『環境首都あいち』」（環境面）の調和のとれた、活力と持続力を兼ね備えた大都市圏を目指します。

## 第4節 国際環境協力の推進

### 1 国際環境協力の推進【環境政策課】

1960年代の深刻な公害を克服してきた本県には、公害防止対策に関する知識、経験等の大きな蓄積があります。アジア諸国を中心に公害に悩む開発途上国は多く、それらの国々に対し、県は

（独）国際協力機構（JICA）などと提携した環境協力を進めてきました。

2019年度には、表11-3-1のとおり、計53名の行政職員等の受入れを行いました。

表 11-3-1 国際環境協力の実績（2019 年度）

国名等	人数	期間	主な研修・調査内容
カンボジア・フィジー・イラク・ラオスほか	14名	1日	JICA 上級国家研修、環境行政に関する意見交換
中国（江蘇省）	5名	1日	廃棄物に関する意見交換等
中国（広東省惠州市）	6名	2日	汚染水対策・下水道整備に関する意見交換、五条川右岸下水道視察
ベナン、カンボジア、フィジーほか	12名	1日	JICA 人事行政研修、環境行政に関する意見交換
アジア・南米・アフリカほか	10名	1日	環境的に持続可能な都市交通計画研修
レソト・リベリア・ニジェールほか	6名	0.5日	マニフェスト制度、不法投棄対策に関する研修

## クローズアップ SDGsの担い手を育成するための研修・シンポジウムを開催しました

県は、SDGs の達成に向けて「SDGs の担い手」を育成するため、2019 年度に、市町村職員を対象とした「SDGs 自治体研修」及び県民、企業・NPO 等を対象とした「SDGs あいちシンポジウム 2020」を開催しました。

### 1 SDGs 自治体研修

県内市町村との SDGs に関する情報共有や連携強化に向け、環境行政・地方創生に携わる職員や SDGs に関心のある職員を対象として、SDGs の理解促進や意識変革を図るための研修を尾張・名古屋地区及び三河地区において 2020 年 1 月 24 日・27 日に開催し、174 名が参加しました。

「地方創生に向けた SDGs の推進について」をテーマに環境省中部地方環境事務所かないのぶひろ金井信宏資源循環課長から講演をいただくとともに、SDGs 未来都市である豊田市からの事例発表やカードゲーム「SDGs de 地方創生」を体験していただきました。

参加者からは「地方自治体として SDGs の取組方法がわかった」、「SDGs の達成には官民連携・パートナーシップが重要であると感じた」、「SDGs は環境、経済、社会を統合して向上させることができる」等の声をいただきました。



カードゲーム体験の様子

### 2 SDGs あいちシンポジウム 2020

「パートナーシップで築く SDGs 達成の未来」をテーマに名古屋市において 2020 年 2 月 27 日に開催し、530 名が参加しました。

「SDGs 達成の鍵を握る自然共生と再生循環」についての講演を造園家、ランドスケープアーキストのわくいまさゆき涌井雅之氏からいただき、環境の視点から、どのように持続可能な未来を築きあげるのかについて来場者の皆様に考えていただくとともに、行政・大学・ボランティア団体等のパネリストによるパネルディスカッションを行い、各主体の取組について発表していただきました。

また、来場者には間伐材で作成した県オリジナル SDGs ピンバッジを配布し、好評でした。



基調講演の様子



パネルディスカッションの様子



SDGs ピンバッジ